令和８年度　小平市立小平第三中学校　授業改善推進プラン

理科　１年生

１　日常の学習状況について

科学に対する興味・関心は全体的に高く、積極的に授業へ参加している。授業中の態度は落ち着いており、観察や実験にも意欲的に取り組んでいる。問いかけへの反応や発表もおおむね積極的であり、課題の提出状況も良好である。一方で、期限内に提出できない生徒や再提出が必要となる生徒も見られ、学習計画を立てて継続的に取り組む力には課題がある。また、自主学習としてノートにまとめる内容は充実してきているが、生徒による差が大きい。

２　学力調査等（定期考査）の結果の教科別・観点別分析

【知識・技能】重要語句や基本事項を答える問題はおおむね定着している。実験・観察の手順や方法を説明する問題では正答率がやや低い。音の単元における計算問題には課題が見られる。

【思考・判断・表現】理由を説明する記述問題では、表現が不正確であったり、説明が不十分であったりする生徒が多い。問われている内容を正確に読み取り、それに応じて説明する力の育成が必要である。

３　学力に関する状況

（１）思考・判断・表現を問う問題への取組が十分ではなく、記述による説明力の定着に課題がある。

（２）授業直後は理解できていても、時間が経過すると復習問題の正答率が低下する傾向があり、繰り返し学習による定着が必要である。

（３）「なぜそうなるのか」を説明することに苦手意識をもつ生徒が見られる。授業の中で理由を説明する機会を増やし、自分の言葉で表現する経験を積ませていく必要がある。

４　教科の指導上の課題

（１）学習内容の定着を図るため、小テストをこまめに実施し、繰り返し学習する習慣を身に付けさせる。

（２）「自分で考える・調べる」 →「生徒同士で共有する」 →「教師の説明・補足を聞く」 →「まとめる」 という学習サイクルを明確にし、主体的・対話的な学びを充実させる。

（３）分かりやすい説明や指示、取り組みやすい課題を設定するとともに、実験の予想や考察など、生徒一人一人が考える場面を積極的に取り入れる。

（４）観察・実験では全員が役割をもって活動できるよう工夫するとともに、学習者用端末を活用して写真や動画を記録し、振り返りに生かす。

５　改善の計画

（１）端末を積極的に活用し、自分の興味・関心に応じて調べたり、まとめたりする活動を通して、主体的に学ぶ姿勢を育成する。

（２）授業や振り返りの場面で、自分が気付いたことや考えたことを自分の言葉で表現する活動を充実させる。

（３）授業プリントや定期考査に記述問題を積極的に取り入れ、論理的に説明する力を育成するとともに、

個別の発言や発表の機会を増やし、表現力を伸ばす。

６　授業改善推進プランの評価方法

（１）授業への取組状況や生徒の振り返り・自己評価を基に、学習への意欲や理解の深まりを把握する。

（２）小テストや定期考査の結果を継続的に比較・分析し、指導改善につなげる。

令和８年度　小平市立小平第三中学校　授業改善推進プラン

理科　２年生

１　日常の学習状況について

学習に意欲的な生徒が多く、落ち着いた態度で授業に取り組んでいる。授業内での積極的な発言は増えている。話し合い活動にも積極的に取り組み、互いの考えを共有し学習を進めることができる。生物分野における観察や実験の取組に対しては、興味・関心をもち、前向きに取り組んでいる。また、ノートの作成についても多くの生徒が板書を工夫して書き写すことができている。

２　学力調査等（定期考査）の結果の教科別・観点別分析

ワークと類似した内容でも、思考や計算を伴う問題については、正解率が低く、暗記的な問題等は正解率が高かった。また、記述問題では、生徒自身の言葉で表すことができないことが多く見られた。課題を読み取る力・解決する力、表現力が不十分であると考えられる。文章理解、問題解決能力の向上を身に付けるよう、問題発見→計画→解決→表現の課題解決的な授業展開を工夫する。

３　学力に関する状況

1. 思考・表現に関する問題は、取り組み不足が現れており、十分に定着されていない。授業内での学習内容は定着している部分もあるが、時間が経つと復習問題の正答率が低い。また、理科Ⅱ・Ⅲは週 1 の実施であり、観察・実験を実施した後のまとめについては、前時の復習や確認を丁寧に行う必要がある。
2. 「なぜそうなるのか」を聞く質問に対して説明することなどが苦手な生徒が見られる。説明に対する苦手意識を減らすため、一つ一つの基礎的・基本的な知識を確認しながらスモールステップ的な発問によって生徒の自信をつけさせていく。

４　教科の指導上の課題

1. 学習者用端末等の ICT を用いた授業の実施に課題がある。現状、実験動画や資料の確認時に使用しているが、今後は問題解決的な授業展開、まとめなどに積極的に使用していく。
2. アンケート結果より、説明が分かりやすいという発問に対して否定的な意見が見られた。分かりやすい説明や発問、取り組みやすい課題、一人一人が実験の予想や考察を考える場面を積極的に設定していくことが課題である。

５　改善の計画

1. 学習者用端末を効果的かつ積極的に活用していく。デジタル教科書内の動画や資料を使用する。また、ロイロノートを用いて、実験計画や実施、まとめといった見通しのもてる授業を展開する。
2. 実験装置の取り扱いについて、実験操作時での説明及び定期考査に出題し、実験技術の向上を図る。また、授業内のプリントや定期考査など、記述内容を増やし、論理的な文章力を高める。
3. スライドショーを用いて、写真やイラストの提示をするなど、視覚的に分かりやすい工夫を行う。

６　授業改善推進プランの評価方法

1. 授業の取り組み状況や生徒の自己評価を基に事象への興味や関心、学習内容の理解度を確認する。
2. 定期考査や確認テストなどの結果を比較分析する。